

令和4年11月1日

親子読書などいかがでしょう

南九州市立浮辺小学校
校長 石川 雅実

暑からず寒からず，読書に最適な季節になりました。読書週間は11月3日の文化の日を中心にして前後二週間と定められていますので，10月27日からスタートしました。

本校では11月を読書月間として読書に関する様々な取組を行います。図書委員会からのお勧めの本の紹介や読み聞かせ，読書郵便，読書クイズ，図書室での新刊コーナーの設置，読書標語の掲示，読書感想画コンクールへの応募などの活動に取り組みます。図書室に足繁く通う子どもたちの楽しそうな姿が多く見られることでしょう。

最近では電子メディアに押され，子どもたちの活字離れが懸念されています。読書は遠い歴史を遡ることも，世界の国々を旅することも，あるいは宇宙の彼方へ夢を馳せることも可能です。想像力や表現力の育成にも役立ちます。

秋の夜長は親子読書などいかがでしょう。本の内容はもちろんのこと，親子での楽しい読書活動もきっと忘れられない思い出として残ると思います。

令和4年11月4日

防災意識を持ち続けよう

南九州市立浮辺小学校
校長 石川 雅実

11月5日は津波防災の日です。津波に限らず災害はいつ起こるか分かりません。忘れた頃にやってきます。しかし，最近では十年に一度と言われる大災害が，毎年どこかで起こっています。災害種毎の防災マップ，防災グッズ，連絡体制等の確認が必要です。これまでの教訓を防災や減災に生かしていきたいものです。

学校でも各種避難訓練を行っています。いざという時に備え，教児共に自ら考え，判断し，実際に自分の命を守る行動が取れるように，防災に対する意識を高く持ち続けたいと思います。危機管理マニュアルについては，各訓練後の反省を生かしながら更に改善を図りたいと思います。

登下校中や休日といった学校以外での被災時の避難場所や避難方法等を，家族間で共有することも大切です。御家庭で具体的できめ細やかな話し合いを通して，防災や減災に努めてください。

自然に対する畏敬の念を持ち，持続的な自然環境保護の取組にも関心を寄せていきたいものです。

令和4年11月14日

幸福論について

南九州市立浮辺小学校
校長 石川 雅実

新型コロナウイルス感染症第8波とインフルエンザの同時流行が懸念されています。閉塞感の漂うこのような御時世ではありますが、誰もが将来に夢と希望を抱き、幸福な人生を歩いていけたらいいなと考える今日この頃です。

秋の夜長に三大幸福論として知られるアラン、ラッセル、ヒルティの言葉を久しぶりに読み返してみました。それぞれの主張は大変示唆に富み、参考になります。普段の生活の中にも幸福は至るところに散らばっているのかもしれませんが。幸福とは各自がそれぞれに気づき、考え、実感するものです。幸福を感じる心を手に入れたいものです。

幸福を題材にした曲も多数あります。その中で昭和43年に水前寺清子さんが歌い、大ヒットした「三百六十五歩のマーチ」という曲の一部を紹介します。「しあわせは、歩いてこない、だから歩いていくんだね。一日一歩、三日で三歩、三歩進んで二歩さがる。」私は、幸福論はこの曲に凝縮されていると考えています。

令和4年11月20日

感動溢れる浮辺ふれあい祭

南九州市立浮辺小学校
校長 石川 雅実

11月20日（日）に感染症対策の徹底を図りながら閉校記念「浮辺ふれあい祭」を開催しました。午前中は小学校主催の学習発表会，子ほめ表彰式，講師の先生による音楽演奏会を行いました。午後からは地区公民館主催の文化祭を行いました。南日本放送でおなじみの野口たくおさん等による演劇を鑑賞しました。子どもたちも演劇構成の一部として出演しました。

学習発表会では日頃の学習を中心に，家族や閉校する学校への感謝の気持ちが子どもたちから伝えられ，会場が感動に包まれました。音楽演奏会では徳田先生のリコーダーと五代先生のピアノの美しい音色に酔いしれました。演劇では笑いあり涙ありの圧巻のステージでした。プロの演出や演技の素晴らしさを間近で観劇し，感動で心が躍りました。

感動の伝播は，人々に希望や勇気，明るさを与えるものだと思います。子どもたち，教職員，保護者，地域の方々の心のふれあう，そして，思い出深い一日となりました。

令和4年11月29日

たき火のような温かい言葉かけを

南九州市立浮辺小学校
校長 石川 雅実

全校朝会で次のような話をしました。

寒い冬の日、二匹のハリネズミは、お互いの身体を温めようと寄り添いました。ところが、お互いの身体についている身を守る針が相手の身体に突き刺さり、血まみれになってしまいました。二匹は困ってしまいましたが、あることに気がつきます。お互いの針が身体に触れないちょうどよい距離を見つけて、寒さをしのいだのです。

このハリネズミの知恵は、人間関係にも使えそうです。ちょうどよい距離を見つけ出せるといいですね。

さて、人間の身体には針がありませんが、一つだけ針を持っているものがあります。それは言葉です。できることなら、他者には針のように痛く、冷たく、ちくちくする言葉ではなくて、たき火のようにぽかぽか温かく、優しい言葉をかけてあげたいものです。北原白秋の詩にある「きれいな言葉はきれいな心、優しい言葉は優しい心。一つの言葉を大切に、一つの言葉を美しく。」皆さんも心がけてくださいね。